

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川第二小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	125人	算数	125人	理科	125人
第5学年	国語	118人	算数	118人	理科	118人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

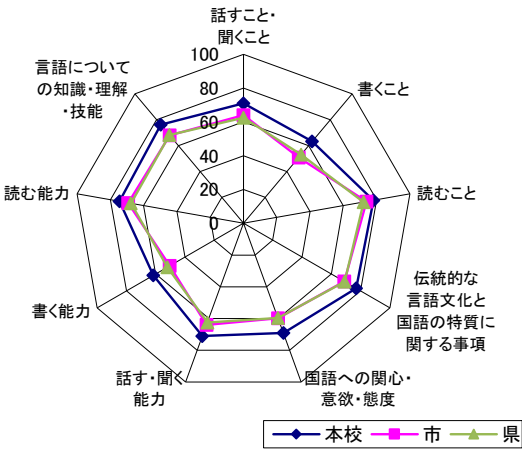
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.0	64.0	62.5
	書くこと	63.2	50.9	53.1
	読むこと	78.1	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.0	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	69.1	59.9	59.7
	話す・聞く能力	71.0	64.0	62.5
	書く能力	61.7	50.4	52.0
	読む能力	74.5	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	76.2	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

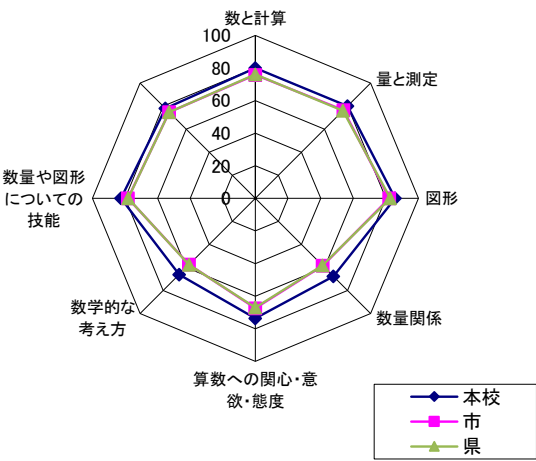
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○「インタビューの質問のねらいを理解することができる」設問の正答率は、県や市の平均を大きく上回っている。 ●記述で回答する「聞きたいことをもとにインタビューの質問を考えることができる」設問の正答率は、県や市の平均を上回っているが、正答率は低く、無回答の児童の割合が14.9%と、課題が見られた。	・教科や特別活動、総合的な学習の時間の指導において、インタビューや少人数で話し合う活動を効果的に取り入れる。また、児童一人一人にインタビューや話合いの仕方を理解させ、それぞれの立場を経験する機会を設けるなどして、積極的に話す・聞く活動に参加し、コミュニケーションの力を伸ばすことができるよう指導していく。特に、インタビューについては、目的をはっきりさせるとともに、目的に沿った質問を考えさせるなど、インタビューの基本を丁寧に指導していく。
書くこと	平均正答率は、県や市の平均より10ポイント以上高かった。 ○出題のねらいのすべてで、県や市の平均を上回ったが、特に「指定された長さで文章を書く」では15ポイント、「理由や事例を挙げて文章を書く」では10ポイントと、大きく上回った。 ●無回答率が11.6%と他区分の設問に比べ高かった。	・普段から、段落の構成や長さ等を考えてから文章を書く活動、自分の考えがよく伝わるように理由や事例を挙げて文章を書く活動などを意図的に取り入れていく。 ・国語の授業だけでなく、社会や総合的な学習の時間等で、文章やレポートを書く学習をできるだけ多く取り入れていく。 ・授業の振り返りやまとめなど、自分の言葉で書く活動を授業に位置付け、継続して取り組ませることで、抵抗なく書けるようにする。
読むこと	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○特に物語文の登場人物の気持ちを読み取る問題では、県の平均を9.7ポイント上回っている。 ●説明文で、文章の内容を読み取ることは92.6%と正答率が高い。しかし、説明文の段落の役割を理解して、的確に読み取ることは、県や市の平均を上回ってはいるが、正答率が54.5%と低いことから、段落を意識した読み取りが課題である。	・本年度の学校課題でもある、日々の音読に力を入れていくことで、読み取りの基礎を築いていく。物語文では、叙述をもとに人物の気持ちや様子を読み取る活動と音読の工夫をつなげながら指導を進めていく。 ・登場人物の気持ちの変化を視覚的に捉えられるように、ワークシートや板書の工夫をしていく。 ・説明文では、問いと答えを表す語句や話題を変える語句など、大事な部分に傍線等を引きながら読んだり、各段落同士の結びつきを考え、文章のまとまりに着目しながら読み取ったりする指導を進めていく。また、段落の要旨を的確に捉え、短い文章で表現する学習活動を繰り返し取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○漢字の書き取りについては、県や市の平均より高く、無回答率も低い。特に、読みに関しては全ての設問において正答率90%を上回った。 ●国語辞典の使い方やローマ字についての設問では、県や市の平均より高く、無回答率も低かったが、ローマ字のつづり方や言葉を言い切りの形に直す設問の正答率は、50%前後と低かった。 ●文の構成(主語や述語)の理解については、市とほぼ同じであるが、正答率は41.3%と低かった。	・漢字の学習については、今後も様々な熟語を取り入れたり漢字の意味を調べたりする活動を取り入れながら、さらに定着を図る。 ・国語辞典の使い方やローマ字については、今後も計画的に復習や活用を機会を設け、定着を図る。 ・国語の時間を中心に、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「何を」、「どのように」、「なぜ」などという文の構成を意識したり確認したりする学習や、自分の書いた文章を語句相互の関係に気を付けて読み返す学習を取り入れ、文の構成について理解できるよう指導する。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.0	75.8	76.1
	量と測定	80.0	76.5	76.0
	図形	85.7	82.1	82.7
	数量関係	67.6	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	73.6	67.4	67.0
	数学的な考え方	66.2	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	82.5	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	78.1	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

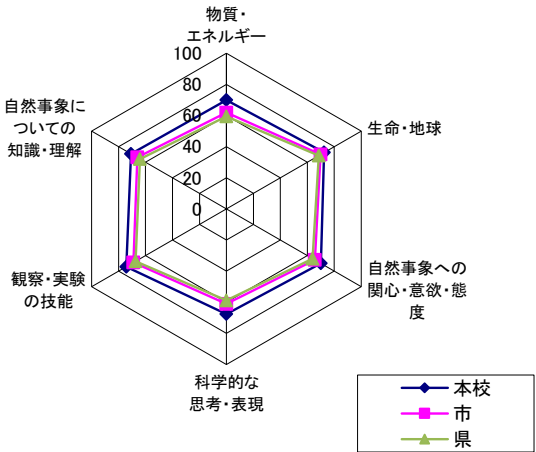
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県及び市の平均より高い。 ○計算問題の正答率は高く、計算の手順をよく理解している。特に、整数から小数をひく問題では、市の平均より17ポイントも高かった。 ●数の相対的な大きさの理解には、課題が見られる。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味の理解は、ほぼ平均であるが、正答率が低く、課題である。 ●かけ算の工夫した計算の仕方を説明する問題では、平均を上回ってはいるが、課題が見られる。	・四則計算については、今後も授業や家庭学習などで繰り返し学習することで、さらに定着を図っていく。 ・日々の授業で、数量関係を表す図や数直線を活用したり、それを用いて説明したりする学習を丁寧に行い、定着を図る。 ・答えを導くまでの考え方を共有したり、説明したりする場面を意識して取り入れ、理解を深められるようにする。 ・数の見方について、百や千を単位としてみる見方ができるよう、具体的な場面を想定してイメージさせるなど、指導方法を工夫する。
量と測定	平均正答率は、県及び市の平均より高い。 ○知識・理解に関しては、県平均正答率とほぼ同じか上回っている。 ○時間や道のり、重さの単位の理解に関しては、6～8ポイント以上、市の平均を上回っている。	・知識・理解に関しては、理解が十分であるが、それを用いて考える問題に関しては不十分な部分が見られるため、知識を活用して発展的な問題に解答できるように、応用問題を解く場面を設定し、定着を図っていく。
図形	平均正答率は、県及び市の平均より高い。 ○すべての設問で、市の平均を上回っている。 ○正三角形の作図の正答率は、92.6%と高い。 ●円に関する理解はよくできているが、球に関する応用問題には課題が見られる。	・立体を平面的に捉える問題に課題が見られるため、類似の問題に取り組ませ、反復して練習できるようにする。 ・実物や模型等を用いることで、半径、直径などの図形を構成する要素をとらえられるようにする。また、問題を図に表す習慣を付けさせ、図形への理解が深まるようにする。
数量関係	平均正答率は、県及び市の平均より高い。 ○□を使った文章問題を表した図の構造をとらえることはよくできている。 ○棒グラフを正しく読み取る設問の正答率が高い。 ●□を使った乗法の式に合った文章問題を選ぶ設問の正答率は、市や県を上回っているものの正答率が低く、課題である。 ●棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明することに課題が見られる。	・自分の考えを、言葉や数、式、図、表・グラフといった数学的な表現を用いて、筋道を立てて説明する機会を多く持たせる。 ・文章題を解かせる際は、鍵となる言葉や数字に下線を引くなどして、問題の意図を読み取る習慣を付けさせるとともに、式から問題を作る学習なども取り入れて、式の意味の理解が深まるようにする。 ・根拠を明らかにして説明する設問に関して正答率が低く、課題が見られるため、日常の具体的な場面を式で表したり、問題の意味を読み取る活動を充実させたりすることで、根拠を明らかにして説明できるようにする。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.9	61.9	59.4
	生命・地球	72.4	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	70.1	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	67.6	61.0	58.8
	観察・実験の技能	74.3	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	70.7	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を全て大きく上回っている。 ○風のはたらきや、物の重さについての理解が十分できており、記述式の問題でも、95%が記入し、85%以上の正答率となっている。 ●豆電球がつかなかった理由やゴムのはたらきについての理由を推測する問題についての正答率が低い。	・既習事項を活用する問題に多く触れさせる。 ・実験の目的を明確にするとともに、問題意識をもって取り組めるように、十分な時間を確保し実験する。 ・実験の結果や考察を、自分でまとめる活動を通して、自分なりの考えが持てるようにする。 ・ゴムを使ったおもちゃ作りなど、学習内容から発展的な実験を自ら考える機会を設ける。 ・一問一答形式の問題ばかりでなく、いろいろな場面設定の文章問題など、様々な問題の形式に慣れさせる。 ・観察や実験を通して、自然の事物・現象の性質や働きについて気付いたり確かめたりするなど、実感を伴った理解ができるように指導していく。
生命・地球	平均正答率は市の平均を全て上回っている。 ○植物やこん虫のからだのつくりについては十分理解していて、85%以上の正答率となっている。 ●一般的な種のまき方は理解しているが、ホウセンカのように小さな種と大きな種のまき方の違いを混同する誤答が多く、正答率が20%程度だった。 ●太陽と影の動きについて、太陽を主にした理解になっており、影を主にした理解が不十分で、正答率が30%だった。	・既習事項を活用する問題に多く触れさせる。 ・一問一答形式の問題ばかりでなく、長めの文章問題など様々な問題の形式に慣れさせる。 ・学習した内容に関連した図鑑等を紹介し、自由研究を奨励していく。 ・種の大きさによって種のまき方が違うことを区別して、実際に体験させながら指導する。 ・太陽と影の動きについて、太陽の動きで影がどのように動くかだけでなく、影の動きによって太陽がどのような動きをしたのか推測することができるなど、視点を変えて説明をするように指導する。

宇都宮市立姿川第二小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」について肯定的回答をしている割合は、県平均より高い。家庭学習の中でも決められた課題に対し、前向きに取り組んでいる様子がわかる。

○「家の人と学習について話をしている」について肯定回答をしている割合は、86.8%と県の平均を11.6%上回っている。今後も、家庭と連携を図りながら学習を進めていきたい。

○「1か月に、何冊ぐらい本を読みますか」について5冊以上、10冊以上と回答をしている児童の割合は、県平均より高い。今後も「本好きな児童」を育てるために、「家読」の奨励や「おすすめの本の紹介」等、読書活動の充実を図る。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」について、いずれも肯定的回答をしている割合が高い。今後も「問題解決型の課題」を多く取り入れることにより、児童の探究心をより高めていけるように努めていく。また、課題を解決するための手立て・方法についても十分指導していく。

○「授業を集中して受けている」について肯定的回答をしている割合は、県平均より高い。今後も、児童が集中して学べる学習環境づくりに努めていく。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」について肯定的回答をしている割合は、県平均より高い。今後も「ほめて伸ばす」指導を継続し、児童の自己肯定感を高めていく。

●「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」について肯定的回答をしている割合が県平均より低い。自主学習を奨励したり、「家庭学習強化週間」を設定したりするなどして、自ら課題をもって学習を進めていくことができるようにさせたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を集めている」について肯定的回答の割合が県平均より低い。授業において、本や辞書・インターネットなどを活用した調べ学習の時間を確保するとともに、積極的に調べていこうとする意欲を高め、分かる喜びを実感できる場を設定していきたい。

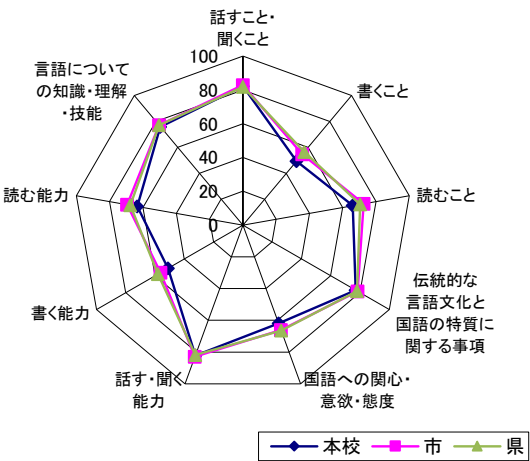
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」について肯定回答をしている割合は47.9%と低く、県の平均を6.1ポイント下回っている。小集団での話し合い活動や自分の考えを発表する場を多く設けていきたい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」について肯定的回答をしている割合が県平均より低い。各授業において、質問タイムを設けたり、教師側から個別指導の時間を設定するなど、支援の工夫をしていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.2	82.9	81.8
	書くこと	49.4	54.8	56.5
	読むこと	66.1	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.1	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	61.9	66.0	66.4
	話す・聞く能力	82.2	82.9	81.8
	書く能力	51.1	56.3	57.9
	読む能力	63.4	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	75.9	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

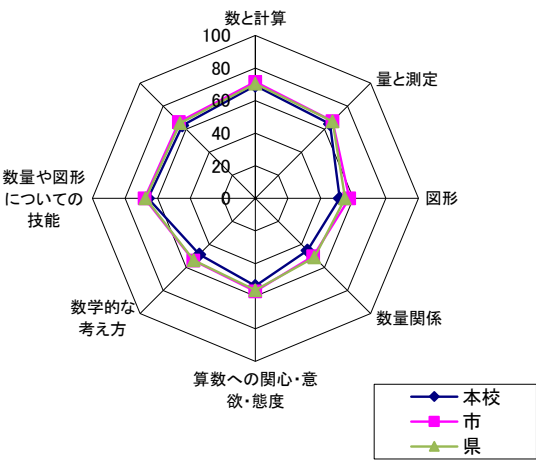
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○話の中心に気をつけて聞き取る設問では正答率が高く、県の平均を4.7ポイント上回っている。 ●司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめる設問では、県の平均を下回っている。記述式の問題であり、準回答者の率が高く、問題に合わせ、正しく解答することが今後の課題と考えられる。	・話すことについて、相手や目的、場に応じて、丁寧な言葉を用いるなど、適切に話すことができるように、朝のスピーチや国語以外の教科でもグループでの話し合い、発表など、場の設定を継続して行っていく。 ・聞くことについて、授業以外の学校生活の中でも、話の目的や意図を考えながら聞いたり、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら聞いたり、必要に応じてメモを取ったりして、自分の考えをまとめられるように指導していく。
書くこと	平均正答率は、県の平均を下回っている。 ○意見をもとにポスターの文を書く問題では、県の平均とほぼ同じ正答率である。 ●書くこととする中心を明確にして文章を書く問題と自分の考えが明確になるように具体的に文章を書く問題の正答率は県の平均を大きく下回った。記述式の問題の回答率は個人差が大きく、今後の課題と考えられる。	・文章を書く際には問題の条件をよく把握して、必要な情報を落とさずに書けるようにするために、具体的な書き方を視覚化できるように提示して指導していくとともに、条件に合わせた書き方に慣れさせていく。 ・自分の考えが明確になるような文章の書き方や、具体的な事例の挙げ方などの指導を重点的に行うとともに、書く活動を他教科でも積極的に取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、県の平均を下回っている。 ○物語の場面の様子を読み取る設問の正答率は、県平均とほぼ同じだった。 ●物語文では叙述にもとづいて場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る設問、説明文では、内容を的確に読み取ったり、段落のまとまりを理解して内容を読み取ったりする設問の正答率は県の平均を下回っており、今後の課題と考えられる。	・物語文では、全体的内容を考え、登場人物の気持ちを想像して読み取る活動において、グループ活動など少人数で意見交換をする場を設け、全体で共有するなど、丁寧に指導していく。 ・説明文では、全体的内容を的確に順序よく読み取ったり、要約したりする活動を繰り返し丁寧に指導していく。 ・朝の読書の時間の確保、図書室の活用、読み聞かせなど、豊かな読書活動の一層の推進を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率が、県平均と比べると、やや低い。 ○漢字の書きや漢字辞典の使い方に関する設問では正答率が高く、県平均を上回っているものが多い。 ●連用修飾語に関する設問では、県の平均を上回っているものの、正答率が50%以下と低く、今後の課題である。	・漢字の学習については、熟語練習や意味調べを取り入れながら語彙を増やしていく。 ・修飾・被修飾の関係や文の構成に関する理解を図るために、類似のプリント学習を繰り返し行ったり、扱う文章の中で確認したりする。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.2	71.5	70.4
	量と測定	64.7	67.0	66.9
	図形	51.7	57.6	55.0
	数量関係	45.2	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	53.7	57.0	56.3
	数学的な考え方	48.6	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	65.9	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	63.3	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

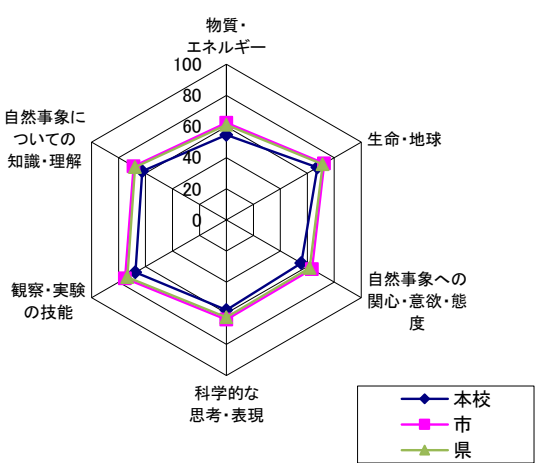
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均をやや下回っている。 ○真分数＋帯分数＝帯分数（繰り上がりあり）の同分母分数の計算問題では、正答率が県の平均を上回っている。 ●帯分数－真分数（繰り下がりあり）では、正答率が県を6.2ポイント、小数第二位÷整数＝小数第二位（商が純小数）の計算では、8.6ポイント下回っている。 ●概数に対応する数の範囲を表す設問では、正答率が県よりも9.2ポイント下回っている。 ●倍とわり算の文章問題を表した図の構造を選ぶ問題では、県の平均を6.4ポイント下回っている。	・小数、分数の計算についての理解が不十分である。小数、分数のしくみを説明する活動を充実させることで理解を深めたり、補助教材や学習プリント等を活用して確実な計算力を身につけさせたりする。 ・四捨五入をして、概数を考えることが不得手であることから、実生活に活用できそうな課題設定をしたり、計算をする前に予想を立てたりすることを通して定着を図っていききたい。 ・日頃から文章問題の理解に図や表を活用させるとともに、図のどこにどんな量が入るのか考えさせたり、問題文に合った図を選ばせたりする学習を取り入れていく。
量と測定	平均正答率は、県や市の平均をともに下回っている。 ○5等分した長方形の1辺の長さを求める問題では、県の平均より4.7ポイント上回っている。 ○180°より大きい角を求める問題では、県の平均を2.1ポイント上回っている。 ●長方形の面積を求める問題の正答率が県の平均より15.8ポイント下回っていて課題が見られる。	・数的感覚を身に付けさせるために、日常生活と関連させて物の長さを予想させ、実際に計測させるなどの体験活動を多く取り入れる授業展開を図るようにする。 ・公式や単位などの意味を押さえながら考えさせ、身近なものとして、実際に使えるような機会を設ける活動を取り入れていく。
図形	平均正答率が、県や市の平均をともに下回っている。 ○ひし形の作図は県の正答率を上回っている。 ●直方体のある辺に垂直な辺を選択する問題では、県の正答率を6.8ポイント下回っている。 ●平行四辺形の特徴を使って、地図上の2つの道のりが等しくなる理由を記述する問題では正答率が9.4%と低く、県の正答率と比べても6ポイント下回った。	・教師の演示だけではなく、一人一人が立体模型を手に取り、操作しながら垂直な辺を認識する機会を設けるようにする。 ・学習したことを生かす発展的な問題を、じっくり考えて解く時間を設ける。長い文章題は、意味を少しずつ読み砕いて説明することで、苦手意識を払拭していくようにする。 ・根拠となる図形の特徴（性質）を選択すること、さらにそれを活用して説明することに課題が見られるため、「どうしてそうなるのか」という説明をしたり、記述したりする活動を取り入れていく。
数量関係	平均正答率が、県や市の平均をともに下回っている。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問では、県の正答率を4ポイント以上上回っている。 ●2つの数量の関係を式に表す設問は、県の正答率を13ポイント下回っている。 ●二次元表を理解し、示されたものが表のどこに該当するかを問う設問では9ポイント、折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問では11ポイント、県の正答率を下回っている。	・表の数量の関係を読み取り、その関係を考えて立式することができるようにする。同様の練習問題を行い、繰返し取り組ませることで、理解につながるようにする。 ・表やグラフの読み取りに課題が見られるため、グラフの正確な読み取り方や、2つ以上のグラフの量の関係を読み取る練習、そして分かったことを表現する活動を、積極的に行っていく。 ・記述問題での無回答の割合が多いので、難しい問題についてもあきらめずに取り組もうとする意識を高める指導をする。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.6	62.4	61.1
	生命・地球	67.5	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	55.6	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	57.9	64.1	62.6
	観察・実験の技能	67.5	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	62.5	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率が、県や市の平均をともに下回っている。 ○実験の結果から金属の体積変化について推測する問題では、正答率が91.5%と高く、県の正答率を1ポイント上回っている。授業での実験に対する意欲が高いため、高い定着が図られたと考えられる。 ●電流についての基本的用語を問う問題では、正答率は、23.1%と低く、用語理解について課題が見られる。 ●電流を強くする乾電池のつなぎ方を文章で説明させる問いには、県や市の平均点も低いですが、本校の正答率は28.6%であり、基礎的な用語を使った説明に大きな課題が見られる。	・実験結果を問う問題については、高い定着率が見られる。児童が自分たちで操作し、考察する授業をこれからも積極的に実践していく。そのことと併せて、単元が終わっても、関連付けて復習できる場面では、意図的に言葉を使うなどして、基礎的な用語を覚えることを徹底する。 ・理由を記述する問題や指定された2つの言葉を使いまとめる問題に課題が見られるため、根拠をもとに短い文で説明したり、自分の言葉でまとめたりする学習を意識して行っていく。また、授業の終末に、短文で基礎的な用語を用いながらまとめていくことを重点的に行っていく。 ・学習した内容でも、設定場面が変わると戸惑いが見られた。発展的に、学習した内容が生活のどのような場面で見られるのか、生かされているのかなどを考える活動を取り入れ、学習内容の定着を図る。 ・「電流」などの基礎的な用語の理解が十分ではないので、授業の中で着実な定着を図る。
生命・地球	平均正答率が、県や市の平均をともに下回っている。 ○動物の体のつくりを問う問題では、県の正答率より、2.4ポイント高く、74.4%の正答率であった。身近な動物をよく観察していることも正答率の高さに反映していると考えられる。 ●気温の正しい測り方や示された方位から他の方位を推測する問題では、県の平均を下回っている。 ●蒸発についての観察実験の問題に対しては、県の平均を2.4ポイント上回っているが、蒸発についての基礎的な用語についての理解が県の正答率と比べて、13.4ポイントも低い。ここでも基礎的な用語の理解に課題があるといえる。 ●自動車の窓が曇る理由を説明させる問いには、県の正答率より、12.1ポイント低い。基礎的な事項を組み合わせさせて答えさせる問題に課題があることがわかる。	・気温の測り方や方位、「蒸発」などの基礎的な用語の理解が十分ではないので、授業の中で科学的な言葉の着実な定着を図るとともに、日常生活の中でも活用させる。また、既習事項を活用する問題に多く触れさせる。 ・実験や観察での意欲的な取り組みが理解を高めていると考えられるので、今後も実験の目的を明確にし、意欲的に取り組めるようにする。 ・他教科の学習（例えば、家庭科での調理実習など）においても、理科の授業で学んだ内容を想起させ、身近な生活場面に理科的な事象が多く見られることを意識させていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」に肯定的な回答をした児童は、99.1%と高く、宿題をするに関してもほとんどの児童が定着しているといえる。

○「勉強しておもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した児童の割合は89.8%で県平均を5.2ポイント上回っている。また、「授業を集中して受けている」と回答した児童の割合は95.7%で県平均を3.5ポイント上回っている。このことから、分かる授業の展開を工夫してきた成果が表れ、児童の意欲の向上につながっていると考える。今後も分かる授業の展開を意識した教材研究に努めていきたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」と回答した児童の割合は95.7%で県平均を10.7ポイント上回っており、本校の取組の一つでもある「ほめてのばす教育」の成果の表れであるといえる。今後も児童一人一人が自分のよさを発揮しながら生き生きと活躍できるように取組を推進していきたい。

○教科の授業内容についての質問で、「授業内容はよく分かる・どちらかといえばよく分かる」と肯定的な回答をした児童が、算数においては88%、国語・社会・理科においては90%を超えている。また、学習した内容の活用に関する質問においても、肯定的回答が多く、前向きな姿が見られる。

●「家で、学校の授業の復習をしている」に肯定的な回答をした児童は67.5%と県平均とほとんど変わらない。しかし、「家で、学校の授業の予習をしている」に肯定的な回答をした児童は、50.4%と県平均より5.4ポイント低い。復習だけでなく、予習にも取り組めるように、自主学習で予習することについて指導する必要がある。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童の割合は75.2%で県平均を2.4ポイント下回っている。また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と回答した児童の割合は54.7%であった。このことから、自分の考えを明確にしながらか発表したり、文章化したりすることに課題が見られる。今年度学校課題に挙げている「表現力を高め合う授業の工夫」の研究に努め、読解力の育成を基盤に自分の意見や考えをまとめて書けるような指導をしていきたい。

●「早ね、早起きを心がけている」と回答した児童の割合は74.3%で県平均を4.3ポイント下回っている。生活のリズムを整えることが学校生活への意欲や態度にもつながるので、家庭と連携を図り、生活習慣の改善を図っていきたい。

●問題を解く時間についての質問で、理科については「時間があまった・ちょうどよかった」と回答している児童が73.5%だったが、国語・算数については「やや足りなかった」と回答している児童がもっとも多く、「足りなかった」と回答している児童と合わせると半数以上となる。どの教科においても県の平均を下回っているのは、問題を解く時間が「足りない・やや足りない」と感じていることが関係していると思われる。問題が長い文章で示されているものが多く、読み取るのに時間がかかったり、問題の意図をつかめなかったりする児童もいるので、国語を中心に長い文章を読む訓練をしていく必要がある。

宇都宮市立姿川第二小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力・表現力の伸長	読む活動から感想を書いたり、自分の言葉でまとめたりする活動につなげる授業展開を意識して行っている。また、音読や視写を取り入れ、よい表現に触れさせる機会を設けている。	「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」と肯定回答した割合は、85%を上回っているが、「自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答している児童の割合は、4年生が60%以上、5年生が50%以上と高かった。
家庭学習の習慣化	週末の家読に全学年で取り組んでいる。学年の始めに、家庭学習の進め方についての資料を配付、年2回家庭学習強化週間(1.2年生は1回)を設け一緒に振り返るなど、保護者にも協力をお願いしている。	「家で宿題をしている」と肯定的に回答した児童の割合は、県平均を上回り、良好であった。「家で学校の授業の復習をしている」「テストで間違えた問題について勉強している」という設問に比べ、「学校の授業の予習をしている」に肯定回答した児童の割合はやや低く、進んで予習にも取り組めるよう、家庭学習の進め方を指導していきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、記述式の設問に対する無回答率が高く、根拠を挙げながら理由を説明することにも課題が見られた。	授業の中で、積極的に自分の言葉で書く活動を取り入れる。	各教科のまとめや振り返りの場面で、自分の言葉でまとめたり、感想や振り返りをある程度まとめた文章で書くように指導する。その際、根拠や例を挙げて書くことも意識させる。良いまとめ方や考えを全体で共有し、全体の表現力の向上を図る。